

JA全農ウィークリー

J A Z E N - N O H W E E K L Y

Web版
JA全農ウィークリーは
こちらから



<https://www.zennoh-weekly.jp/>



2面

「令和6年度りんご販売
懇談会」を開催

(青森県本部)

4-5面

「やさいの日」にあわせ
フェアやイベント

配送先変更(住所・宛名)、
配布部数変更はこちら



写真提供:岡山県本部

News!



「令和6年度りんご販売懇談会」を開催

集荷目標 720万箱、前年産比 134%目指す

青森県本部



開会のあいさつをする乙部会長

輝雄会長は「近年の異常気象による収穫量の減少で価格は高値基調で推移している。一方、生産者の高齢化・労働力不足により生産基盤の脆弱化が進行している現状もあることから、消費地と産地が一体で施策を進め、組合員所得の向上に取り組んでいく」と決意を語りました。

懇談会には、全国の取引会社や関係者、JAの代表者ら約210人が出席し、計画達成に向けて意識統一を図りました。

重点実施策として生産面では、交信かく乱剤「コンフューザー」設置面積拡大による防除の徹底や、JA・品種別集荷目標に基づき、卸売市場との連携強化による有利販売の実践と、コスト増高を反映した価格形成に係る理解醸成に取り組みました。また、物流対策としてパレット輸送拡大に向けた選果施設改修の検討などにも取り組みます。

青森県本部は8月27日、弘前市で「令和6年度りんご販売懇談会」を開催し、令和6年産は系統集荷720万箱（1箱20キ）、前年産比134%、販売計画は1200万箱（1箱10キ）、同133%に設定しました。

News!



JA尾道市直売所の出荷生産者と意見交換会

耕畜連携・資源循環ブランド「3-R」拡大へ

広島県本部



「ええじゃん尾道」の3-Rコーナー前でPRする生産者ら

の意義を消費者の方に知ってもらい、購入してほしい」と今後への期待を語り、産直センターの吉原徹センター長は「3-Rは出荷者、販売者、消費者の3者の理解があつて、初めて広がるもの。認知度拡大に向けて取り組んでいく」と話しました。

「3-R」とは「耕畜連携」による資源循環型農業で生産された農畜産物や加工品のブランドです。

「ええじゃん尾道」では2022年6月から3-Rコーナーを設置し、資源循環米「せらにしあきさかり」、ニガウリやアスパラガス、ナスなどの「循環野菜」や「お米ポーク」などを販売しています。意見交換会では、県本部から3-Rブランドの取り組み意義、産直センターから直売所の販売状況を報告しました。

意見交換会を行いました。

広島県本部とJA尾道市産直センターは8月28日、耕畜連携・資源循環ブランド「3-R」の生産振興や、さらなるブランドの付加価値向上を目指して、JA直売所「ええじゃん尾道」に3-R循環野菜を出荷する生産者3人と意見交換会を行いました。



「全農みんなの子ども料理教室」に協賛

グループ各社提供の国産農畜産物を使って楽しく料理

広報・調査部

全農は8月30日、世田谷区文化生活情報センターで開催されたCPM生活者マーケティング(株)主催の「全農みんなの子ども料理教室」に協賛しました。

今年度2回目の開催となった同教室には、(一社)風の翼が運営する放課後等デイサービス「ウイングせたがや代田」を利用する小学2年生から高校3年生までの子どもたち12人が参加しました。

参加した子どもたちは、料理の講師や施設のスタッフにサポートしてもらいながら、全農グループ各社が提供した国産農畜産物を使用して4種類の料理作りにチャレンジしました。子どもたちは野菜を切っ



講師やスタッフと協力して調理を実施

たり、卵を割って卵焼きやパンケーキを作ったり、真剣なでも楽しそうに取り組んでいました。また、完成した料理を食べて「家でも作ってみる」などと笑顔で話す様子も見られました。

教室の最後には食育クイズも行い、子どもたちが料理や食材について楽しく学ぶ機会となりました。全農は、これからも料理教室などを通じて、食や農業の大切さなどを子どもたちに伝えていきます。



完成した料理を食べる子どもたち



2人分で「1日に必要な野菜350g」料理教室を開催

カゴメ、ABC Cooking Studioとコラボ

園芸部

全農は「野菜をとろうキャンペーン」の一環として、カゴメ(株)ABC Cooking Studio(以下ABC)と協力し、厚生労働省が推奨する「1日に必要な野菜350g」を使った料理教室を7〜8月に開催しました。

「野菜をとろうキャンペーン」は野菜摂取の推進を目的に、カゴメが2020年1月から展開する取り組みです。ABCや全農をはじめ、その思いに賛同する企業や団体19社が参画し、さまざまなイベントを行っています。

今年「野菜の日」(8月31日)に合わせ、実際に「野菜350g」を感じてもらおう



レッスンでは講師が野菜の産地や特徴なども説明



夏にぴったり彩り野菜バーベキューメニュー(1人分)では半日分の野菜175gを使用

うと、2人分で野菜350gを使用する料理教室を開催しました。

スイートコーンやミニトマト、ズッキーニなど夏野菜を中心に、主菜からデザートまで、すべての料理に野菜を使ったメニューをABCが考案。コレド日本橋スタジオ(東京)、イオンモール大高スタジオ(愛知)、アミュプラザ長崎スタジオ(長崎)の3スタジオで「1dayレッスン」を実施しました。

このレッスンはABC会員以外の方も参加することができ、3スタジオで130人以上が受講。参加者からは「自宅でも簡単に作れそう」「無理なく野菜をちゃんと食べた」などの声が聞かれました。



野菜をとろう
キャンペーン
はこちら



わせフェアイベント

消費推進活動を繰り広げました。各地の取り組みを紹介します。

園芸部・フードマーケット事業部

直営飲食店舗で「野菜の日フェア」 毎日の食事でもっと野菜を食べよう

園芸部とフードマーケット事業部は連携し、8月31日から9月6日まで全農の直営飲食店舗4店舗で「野菜の日フェア」を開催しました。

厚生労働省は1日に野菜を350g以上食べることを推奨していますが、成人の1日の野菜摂取量は平均280gと、約7割の人が目標摂取量に達していないと言われています。そこで、「野菜の日」をきっかけに毎日の食事で野菜を食べることを意識してもらおうと、店内POPで呼びかけるとともに、定食やビュッフェで夏ダイコンを使ったメニューを提案しました。

また、産地直送通販サイト「JAタウン」で各県自慢の野菜セットを楽しんでもらうため、「お客さま送料負担0円キャンペーン」を実施したところ、売り上げが前年比153%と好評でした。



暑い日でもさっぱり食べられる「夏大根のトマト煮」を小鉢で提供(みのる食堂 三越銀座店)



店内POPで「野菜の日」を呼びかけ

新潟県本部

野菜が苦手な小学生を対象に 収穫体験を通じて親しみを

新潟県本部は8月17日、新潟市アグリパークと合同で「だいさい野菜バイト～夏野菜編～」を開催しました。同イベントは野菜が苦手な小学生を対象に、クイズ形式の講座や野菜の収穫体験を通じて、野菜へ親しみを持ってもらうことを目的に開催しています。

昨年11月の「秋野菜編」に続き2回目の開催で、今回は小学生以下の子どもとその保護者9組24人が参加しました。ピーマンの苦みを抑える方法やトマトの栄養価についてのクイズで野菜の知識を学んでもらったほか、畑でミニトマトとナス、ピーマンの収穫も行い、収穫した野菜は参加した子どもたちにプレゼントしました。



イベント参加者との集合写真

子どもたちは野菜の収穫作業を体験

福島県本部

ふくしまFMで“まるごと1日野菜の日” 直売所で旬の野菜ボックスを831円で販売

福島県本部はJA福島ファーマーズ・マーケット連絡協議会と連携し、毎年8月31日の野菜の日に、県産野菜の消費拡大の取り組みを実施しています。県本部直営の農産物直売所「愛情館」では、生産者の思いが詰まった旬の野菜ボックスを「や・さ・い」の語呂合わせ831円で販売しました。販売開始前から長蛇の列ができ、準備した100箱はすぐに完売しました。

また、地元ラジオ局のふくしまFMでは、野菜の前日の30日に「JA全農福島プレゼンツ! まるごと1日野菜の日+福島農畜産物」と題し、朝・昼・夜の3番組で県産農畜産物を県民リスナーへPRしました。



ラジオ番組には渡部俊男県本部長も出演し県産農畜産物をPR



大人気の野菜ボックスの販売



「やさいの日」にあ

8月31日の「やさいの日」を中心に、全農は8、9月に野菜の

広島県本部

野菜の日&耕畜連携・資源循環ブランド「3-R」5周年を記念し消費者へPR

広島県本部は8月31日、広島県産野菜のPRと、耕畜連携・資源循環ブランド「3-R」が5周年を迎えることを記念し、農畜産物直売所「とれたて元気市広島店」でイベントを開催しました。

当日は、野菜の日イベントとして県産ミニトマトの「箸つかみチャレンジ」を行い、皿に移すことができたミニトマトと、150g以上移せた方にはさらにアスパラガスをプレゼントしました。

3-Rの5周年イベントとして3-Rに関するアンケートも実施。回答者の中から抽選で33人に3-R商品「ひろしま米粉バウムクーヘン」をプレゼントしました。

イベントの参加者からは「3-Rはとても良い取り組み。早速3-Rのナスを購入した」などの感想が寄せられました。



イベントには多くの親子連れも参加

青森県本部

11店舗で「やさいの日」JAフェア 野菜詰め放題、カレー試食などで県産をPR

青森県本部は8月30、31日の2日間、県内のスーパーマーケット計11店舗で、「やさいの日」JAフェアを開催しました。

店頭では、のぼりやポスターの掲示や県産野菜を使用したレシピなどを配布しました。また、ハウス食品(株)とコラボしたオリジナルカレー「青森のうまいもの 夏野菜の彩りカレー」の試食も実施し、県産野菜の消費を呼びかけました。

県内スーパーマーケット「カブセンター大野店」の青果チーフ・阿部凌也さんは「フェアを通じて、お客さまに青森県産野菜の認知度を高めてもらい、より多くの方に手にとってもらえれば」と話しました。

8月17日にも「あおもりやさいフェスティバル」を開き、野菜詰め放題などの参加型の催しは親子連れでにぎわいました。



「やさいの日」JAフェアの店頭には各種県産野菜が並んだ

山梨県本部

ヴァンフォーレ甲府のホームゲーム戦で「野菜の日キャンペーン」山梨県産PR

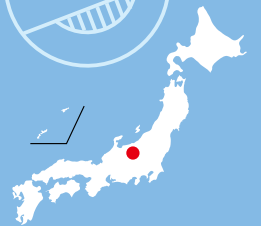
山梨県本部は8月31日「野菜の日キャンペーン」の一環として、山梨県やJA山梨中央会、山梨県農畜産物販売強化対策協議会と連携し、明治安田J2リーグのサッカーチームヴァンフォーレ甲府のホームゲーム戦ハーフタイムで行われた抽選会に、県産野菜の詰め合わせ10人分を提供しました。

同キャンペーンは、安全安心な農畜産物を提供する生産者とJAの役割について理解醸成を図るとともに、県産農畜産物の消費拡大を目的に行いました。



ヴァンフォーレ甲府の試合で大型オーロラビジョンを使用し県産野菜をPR

9月8日には、県産野菜消費拡大の取り組みとして、甲府市の小瀬スポーツ公園で県産野菜をPRするチラシの配布や野菜のアンケートを行い、回答者100人を対象にエコープマーク品のドレッシングをプレゼントしました。



長野県産でスポーツを応援 ファンも含めた県産農畜産物のPRへ

長野県では近年、サッカーをはじめとするチーム競技から、スピードスケートや相撲などの個人競技まで、さまざまな競技でチーム・選手が活躍しています。長野県本部は県にゆかりのある選手たちを食を通じて応援するとともに、その知名度や集客力を生かして県産農畜産物のPRに取り組んでいます。

松本山雅とスポンサー契約 「JA全農長野デー」でPR

サッカーJリーグの松本山雅FCとは、当時JFL（日本フットボールリ



昨年の松本山雅FCスポンサーデー「JA全農長野デー」©松本山雅FC

グ）だった2010年からスポンサー契約を開始し、J2、J1、現在のJ3と、Jリーグに昇格してからの浮き沈みと一緒に経験してきました。長野県本部は、スポンサーデーをJFL当時から開催しており、「JA全農長野デー」と称してスタンプラリー、クイズ大会、県産農畜産物を使用した料理の提供などを行ってきました。

長野県本部が契約しているチーム・選手

- サッカー Jリーグ
松本山雅FC
- バスケットボール Bリーグ
信州ブレイブウォリアーズ
- バレーボール Vリーグ
VC長野トライデンツ
- 大相撲
御嶽海関（出羽海部屋・木曾郡上松町出身）
- スピードスケート
伊藤誠悟選手（長野県競技力向上対策本部スポーツ専門員・長野市出身）
山田梨央選手（直富商事（株）所属・諏訪市出身）

このような取り組みにより、同イベントを毎年楽しみにしているサポーターは多く、県産農畜産物のPRと県本部のイメージ向上に寄与しています。今年10月13日に開催予定で、「人気汁物対決」と題して県産農畜産物を使った3種類の汁物などをサポーターに提供します。

B・Vリーグ、相撲、スケート 食を通じてスポーツ支援

バスケットボールBリーグの信州ブレイブウォリアーズとは、22年からオフィシャルサプライヤー契約を開始し、米を中心に旬の果実などを提供しています。シーズン中は県産米が海外出身の選手も含め全ての選手の原動力となっています。また、大相撲の御嶽海関が所属する出羽海部屋には、16年から毎場所前に年6回、旬の食材を提供し、ちゃんこなどに使用されています。

スピードスケートの伊藤誠悟選手・山田梨央選手は、県本部が提供した食材やそれらを使った料理をSNSにアップしており、県産農畜産物のPRにも

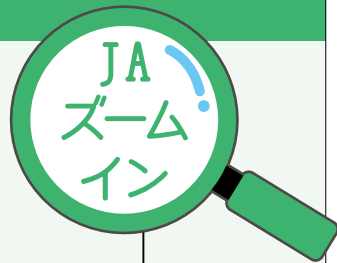
つながっています。また、今シーズンからはバレーボールVリーグのVC長野トライデンツにも食材提供を開始します。食は選手の体を作り、スポーツ支援はファンに食の魅力を伝える助にもなります。長野県本部は今後も食を通じたスポーツ支援の取り組みをすすめます。



長野県産米を持つ信州ブレイブウォリアーズ小玉大智選手



出羽海部屋の木曾合宿へ県産農畜産物を贈呈



元気な産地づくりへ現場重視

担い手推進対策課を新設

JAながさき県央 (長崎県)



概要	2024年3月31日現在
正組合員数	1万506人
准組合員数	2万9191人
職員数	524人
販売品取扱高	143億3千万円
購買品取扱高	163億9千万円
貯金残高	1820億1千万円
長期共済保有高	5707億2千万円
主な農産物	パレイシヨ、イチゴ、 ニンジン、ミカン、茶、 畜産、水稻

JAながさき県央は、長崎県の中央部に位置し、諫早市・大村市・東彼杵郡の3町を管轄にしています。農業が地域の中心的な産業であり、管内の主要作物は、パレイシヨ、イチゴ、ニンジン、ミカン、茶、畜産、水稻です。近年はアスパラガスやミニトマト、キュウリなどの生産にも力を入れています。

「小串トマト」日本農業賞 売上高4億円の直売所も

JAでは、生産者の経営安定と所得向上を図り、元気な産地づくりを目指しています。川棚町の「小串トマト」は、最高糖度が10度以上



大勢の来店者でにぎわう直売所の店内

と通常のトマトに比べて甘みが強く、小さなサイズで、トマトが苦手な人や子どもも食べやすいと県内外からも人気です。栽培農家は5戸と小規模ですが、昨年度の販売金額は9000万円を超え、第53回日本農業賞の団体組織の部で優秀賞を受賞しました。

管内には三つの直売所があり、「ファーマーズマーケット きん彩」では、現在770人を超える生産者が新鮮で安全・安心な農畜産物を出荷しています。昨年度の売上高は4億円、客数は30万人を超え、ともに2003年のオープン以来最高を記録しました。県内でトップクラスの豊富な品ぞろえを誇る花き類が売り

上げの上位を占め、遠方からの来店客も多くいます。さらなる品質の向上に向け、生産者との連携を強め、顧客に愛される直売所づくりを続けています。

「長崎和牛」枝肉共助会で グランドチャンピオン賞

今年から担い手推進対策課を新設し、新規就農者支援・労働力支援などに力を入れていきます。また、即戦力となる営農指導員教育のため、定期的な現地でのスキルアップ研修や、学生に食や農業の大切さを伝える「みどりの食料システム戦略」の講演を行っています。現場巡回を重視し、生産者に寄り添う

指導員を育成します。畜産事業では、第30回「長崎和牛」系統枝肉共助会で、JA肥育牛部会の平本強さんの出品牛が最高賞「グランドチャンピオン賞」を受賞しました。独自ブランドの「長崎和牛PREMIUM県央」「ながさき健王豚」の販売シエア拡大に向け、販売先との情報交換を密に行い、定時量の出荷により有利販売につなげていきます。



グランドチャンピオン賞を受賞した平本さん



日本農業賞の賞状を手にする吉本明德組合長(左)と「小串トマト」生産者の富田翔一さん



ニッポンエール 「沖縄県やんばる産 パイナップルの芯」を新発売

パイナップルの芯を
ドライフルーツに

全農と全国農協食品(株)、(株)ファミリーマートは、「ニッポンエール」ブランドのドライフルーツ「沖縄県やんばる産パイナップルの芯」を共同開発し、10月1日から全国のファミリーマートで販売します。※店舗によって取り扱いのない場合がございます。【営業開発部】

ニッポンエール「沖縄県やんばる産パイナップルの芯」は、JAおきなわの加工場でパイナップル缶を製造する際に排出される「パイナップルの芯」を使用した、食べやすいひとくちサイズのドライフルーツです。

「パイナップルの芯」は本来、果汁向けに搾汁しており、その残渣は飼料として活用されています。同商品は、飼料以外の新たな活用方法として、「パイナップルの芯」を丸ごとドライフルーツにすることで、パイナップル生産者の生産意欲と収入の向上に貢献したいという思いから開発しました。



ニッポンエール
「沖縄県やんばる産パイナップルの芯」

マツダスタジアムで 岡山県デー 両球団に 「シャインマスカット晴王」贈呈

岡山県本部は9月10日、広島市のマツダスタジアムで行われた広島東洋カープと読売ジャイアンツのプロ野球公式戦で、両球団に「シャインマスカット」の「晴王®」5^{kg}を贈呈し、県産品をPRしました。【岡山県本部】

当日は、晴れの国おかやま観光キャンペーン推進協議会および「森の芸術祭 晴れの国・岡山」実行委員会が主催する地域交流イベント「岡山県デー」が行われました。岡山県本部は両球団に「晴王®」を贈呈したほか、「おかやま和牛肉ぼっかけ盛り肩ロース焼肉用1^{kg}」を抽選で来場者10人にプレゼントするなど県産農畜産物をPRしました。

また特設ブースでは、県産果物を使用した加工品や、きびだんごなど14品目を販売し、多くの方がブースを訪れました。岡山県本部は、今後もイベントなどを通じて県産農畜産物の魅力を発信していきます。



(左から)読売ジャイアンツの秋広優人選手、「でえれえ好きじゃけえ岡山大使」のリンクアップとっしーさん、佐賀弘県本部長、広島東洋カープの石原貴規選手

JA全農の産地直送通販サイト
JAタウン ショップ紹介

あつめて、兵庫。

兵庫県の中西部に位置する宍粟市で育まれた「丹波黒えだまめ」です。晩生種の「丹波黒えだまめ」は、長い間畑で熟成させることで、深みのあるコクと甘みが凝縮されます。褐色がかかったさやに包まれた大粒の実は、もちもちの食感とほくほくとした歯応え、風味も格別です。

収穫されたエダマメは、良品を手早く選別したうえで鮮度保持袋に入れ、鮮度を保ったまま出荷されます。今の時期しか味わうことができない絶品の「丹波黒えだまめ」をぜひご賞味ください。

※10月中旬～下旬のお届けを予定しています。



丹波黒大豆えだまめ(200g×6袋)・・・3420円(税込み)

▶ JAタウンはこちらから <https://www.ja-town.com>
▶ お問い合わせは shop@ja-town1.com



ご注文は
こちらから

